

2020 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 入選

苦難の中の輝き

(原文は英語)

ダニエラ・オドン・アジアナット (13 歳)

ウガンダ・カンパラ市

マウント・セント・メアリーズ・カレッジ・ナマングンガ校

ダニエラへ

なぜ私があなたに手紙を書くことにしたのか、きっと不思議に思っているでしょう。どうして 2030 年で、どうして今なのか。その理由はもしかしたら、私たちが世界平和を達成したことを伝えるため。あるいは、気候変動の危機が過去のものとなったから。もしかすると、コロナウィルスの世界的流行に関するドキュメンタリーを、ヒストリーチャンネルで見ることができるようになったから。「答えは美しい夕暮れの中にある」なんて言ったら、あなたは私のことを信じてくれるでしょうか。空のキャンバスで太陽の光がピンク、紫、ブルーに混ざり合っただけで色とりどりに輝くのを眺めていると、真の美しさは違いの中にこそ見つかるもの、それを空が証明していると、私は強く思います。

私がいる世界の話をしてしまおう。世界は最悪の時を迎えて団結しました。今日、世界はこれまでにないほど正常な状態です。COVID-19 の世界的流行は、私たちの生活様式の単なる曲がり角となっただけではありません。何が本当に大切かという疑問を多くの人々に投げかけました。自分たちの人生の一部を費やすほどの価値があるものと、そうではないものは何かという疑問です。私は、この歴史上かつてない悲劇が、このような素晴らしい未来を描くことができるなど、夢にも思いませんでした。

人々が優先事項の大掃除を行なったことで、パンデミックはそんな人たちのコミュニティ意識を深めました。皆が協力してホームレスのための家を建てたり、道で知らない者同士が素敵な笑顔を交わしたり、今ほど優しさがはっきり見えることはありません。こうした人々の愛は、私たちの地球にも響き渡っています。色とりどりの鳥たちが、太陽の強い光を恐れず自由に飛び交っています。空は今までになく青く、大気汚染もありません。こうしたことはすべて波及効果です。私たちが費やした時間の結果ではなく、私たちがやると決めたことの結果です。

感染症の流行前は、多くの人々がネット中心の生活をしていました。パソコンの画面や電子機器に張り付いた生活を送っていました。自分の周りの人々に対する感謝の気持ちを忘れていました。パンデミックは、そんな世界の一時停止ボタンを押したようです。人々は外の世界から引き離され、電子機器が話し相手となりましたが、それでは十分満足できませんでした。人と一緒にいられることだけでなく、その人々を愛し、一緒に過ごす時間を大切にするこの価値に気づいたので。多くの

人々の命を奪ったこのような災難を経験して初めて、そのことに気づいたのかと思うと辛くなります。

あなたの夢はいつも、神経に障害を負った子どもたちを助け、普通の子ども時代を過ごせるようにしてあげることでしたね。小児神経外科医である私にとって、それは今でも大切な夢です。私は今、自分の力を手術室の外でも発揮すべきだと思うようになりました。そのため私は、世界中の数多くの児童保育機関と協力して、障害のある子どもたちを支援しています。自分たちの価値に気づく手助けをし、彼らがそのまま十分であることを教えてあげたいのです。この情熱は何ものにも代えることはできません。障害のある子どもたちは、私にはとても敵わないほど勇気があります。苦しい時に見せる彼らの笑顔は、私にとって最高の贈り物です。どんなに嫌な一日であっても、私はいつも、誰か特別な人の人生に触れたかのような気持ちで家に帰って来ます。

違いの中にこそ計り知れない美しさがあります。ダニエラ、この手紙を読む頃までには、あなたがそれを理解できるようになってほしいと思います。他の人には雨降りにしか見えない日でも、きれいな虹が現れる前ぶれだと思うようにしてください。困難な時だからこそ、本当の輝きが見つかるのです。毎朝、昇ってくる太陽の光に目を覚まし、空のキャンバスが黄色、オレンジ、深紅と色とりどりに輝いているのを見たら思い出してください、それはいつも同じではないことを。時には落ち着いたラベンダー色の日もあります。それでも素敵であることに変わりはありません。同じように、あなたの人と違う部分を発揮して、他の人のそうした部分を照らす光となってください。あなたの世界がその違いを活かせるのは、まさに今かもしれません。

愛をこめて

たった 10 年先のあなたより